総合教育センターだより
Kyoto Prefectural Education Center
112
平成31年２月５日（火）
第112号（通算195号）
京都府総合教育センター
TEL　：075-612-3266

# 学びの直送便

社会の急激な変化に対応するためには、どのような「意識」が必要なのでしょうか。その問いの答えにつながる講座として、今回の「学びの直送便」では２年目教員「ステップアップ」講座と「学校組織力パワーアップ講座Ⅲ」を紹介します。

## 課題解決を通して、実践を深化させた１年間

ステップアップに向けて
主体的に学び続ける意識の大切さ

### ２年目教員「ステップアップ」講座 １年間のまとめ

２年目教員「ステップアップ」講座では、教科指導力及び授業実践力の向上とともに、**自ら課題を設定し自立的に課題解決を行うことのできる資質能力の育成**をねらいとしています。そのため、自らテーマを設定し、勤務校での実践を持ち寄りながら、お互いにアウトプットし、協議を通して課題解決に取り組みました。

力強く自身の実践を語る受講者の姿からは、様々な課題に直面しながらも、真摯に取り組み、奮闘していた様子がうかがえました。

今後とも、課題意識を高く持ち、自立的に課題解決を行いながら授業改善ができる教員を目指して、自身の資質能力の向上に向かってほしいと願っています。

**２年目教員「ステップアップ」講座**

| | | |
|---|---|---|
| 課題の設定 | 自校 | テーマの設定 |
| 情報の収集 | 自校 | テーマに基づく実践 |
| | ステップ1 | 新学習指導要領の趣旨<br>個に応じた支援、道徳の授業づくり |
| 整理分析 | ステップ2 | 実践の振り返り（中間発表）<br>課題の明確化➡２学期の実践へ |
| | 自校 | 実践の深化 |
| まとめ表現 | ステップ3 | 実践のまとめ（実施報告）<br>３年目以降の展望 |

自身の設定した課題に基づいたＰＤＣＡサイクルで実践を深化させました。

授業を改善するための課題を設定して自立的に実践を進めました。

**授業改善へ向けて**

| 課題の設定 | 情報の収集 | 整理分析 | 実践 | 振り返り |
|---|---|---|---|---|
| こんな授業がしたい。 | 研修会に参加しよう。<br>文献にあたろう。<br>他の教員に聞こう。<br>授業を参観しよう。 | 考える。<br>指導計画を立てる。 | やってみる。 | テーマに対して、ここまでできた。<br>課題は…。<br>だから、次はこうしよう。 |

## 「社会変動」と「教育改革」をつなぐ視点

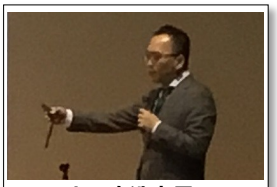
社会に向けて絶えず
アンテナを張る大切さ

### 学校組織力パワーアップ講座Ⅲ

12/14

文部科学省高等教育局大学振興課　山田泰造　大学入試室長
福井大学大学院教育学研究科　松木健一　教授

山田室長からは大学入試改革の最前線におられる立場から、その意義と最新の進捗状況を講義いただきました。



山田泰造室長

知識基盤社会の中で社会構造は急速かつ大きく変革しています。高大接続の近年の動きについては、そうした社会の中で**新たな価値を創造していく力の育成**を重視していることを説明していただきました。

また、その上で大学入学共通テストにおける、**英語の「スピーキング」「ライティング」を含む４技能の直接評価の必要性**など具体例を提示していただきました。

松木教授からは、「児童生徒の理解」「教師自身の自己理解」「現代の教育の理解」の３つの理解を中心に、教師自身が社会変動による教育改革を的確に理解し、これからを生きる児童生徒の指導に努める必要性について講義いただきました。

松木健一教授

少子高齢社会、人生100年時代と言われる社会において、**一生を通して学び続ける必要性**や**教師の役割が「学びの専門家」へと大きく変化**しているという視点について学びました。

社会が急速に変化していく中で、「児童生徒が社会に出た時にどんな社会になっているのか」の視点をしっかり持ち、**世の中の動きに絶えずアンテナを張る**ことが大切であることを学びました。

【特集!!】

# 学級経営に教育相談の視点を生かす

## ～互いに理解し認め合える学級づくり～

学級づくりも仕上げの時期になりました。児童生徒の学校生活のベースとなる「学級」の満足度は４月からの新しいスタートに向かう活力につながります。

児童生徒が生き生きと過ごし、可能性を伸ばせる「互いに理解し認め合える学級づくり」につなげるために、今回は「モデル」と「児童生徒理解」について紹介します。

### ●教師自身がモデルを示す

「互いに理解し認め合える学級づくり」のためには、子どもたち相互のヨコの関係をいかにつなぐか、という集団へのアプローチが必要となります。

そのためにまず大事にしたいのは、教師自身がモデルになることです。まずは教師が子どもを理解して適切に関わり、一人一人の存在自体を認めるというモデルをやって見せることが重要です。そういった教師の姿から学級の中に「互いを理解し認め合う」という学級文化が生まれます。

その上で日常の生活や学習活動が対話的なものとなるよう工夫し、子どもたちの人間関係をつなぐことで学級づくりはより効果的なものとなります。

### ●幅広い情報から理解する

「互いに理解し認め合える学級づくり」のためには、教師自身の児童生徒理解が不可欠です。信頼関係のもと、直接子どもの思いをじっくりと聞くことが理解の基盤となりますが、それ以外にも下に示したように様々な情報が児童生徒理解に役立ちます。担任だけでなく、様々な教職員や保護者、各機関など複数の視点から幅広く情報を得て、より深い児童生徒理解につなげましょう。

- 学習面　・対人関係（友人、教師、家族との関係等）
- 家庭状況や家庭での様子　・興味や関心
- 過去の学校（園）や学年での状況　・心身の状況
- 発達面（発達障害や発達段階の視点）　など

これらの情報は学級づくりだけでなく、次の年度につなぐ際に、連携の重要なポイントとなります。

気になる児童生徒についてはしっかりと「見立て（アセスメント）」を行い、状態の仮説を立て、保護者や他の教職員、各機関と連携し、４月からも子どもがよりよい状態になるよう、それぞれが役割を分担することが大切です。

児童生徒の誰もが認められ、「自分はここにいていいんだ」と思える学級。「モデル」を示し、「児童生徒理解」を深め、様々に連携しながら、そのような「心のよりどころ」となる学級づくりを進めていきましょう。

出前講座紹介　903「小学校道徳教育」910「中学校道徳教育」

# 教材の構造分析から始める道徳の授業づくり

「特別の教科　道徳」における学習指導要領の趣旨として、**「道徳科の授業の質的転換」**や**「児童生徒を認め、励ます評価」**が求められています。

出前講座では道徳教育及び道徳科の目標を正しく理解し、道徳的価値に対する理解を深めることをねらいとした授業づくりや評価の在り方について、講義と演習を行っています。授業づくりの演習では、教材の構造を分析し、**ねらいとする価値に迫る中心発問**や、**予想される児童生徒の反応**を考えます。また、評価のための資料を互いに検討し、**評価の視点**等について考える演習も行っています。

校内で共通理解を図ることにより、組織的、計画的な道徳教育の推進につながることを期待しています。

### 「教材分析ワークシート」から

資料に示されている主人公の「行動やことば」から「こころ」を考え、**変化した場面（中心場面）**を捉えます。

**状況の理解**

① 主人公

自覚する前の場面

行動・ことば

こころ

③ きっかけとなる人物や出来事

**中心場面**

② 行動・ことば

こころ

生き方について深く考え自覚し、変化する場面

④ 行動・ことば

こころ

自覚し、変化した後の場面

内容項目（　　）

ねらい

教材の構造分析をもとに**ねらいとする価値**を明確にし、**中心発問や児童生徒の反応**を考え、授業の展開を考えます。

- 状況理解の発問
- 中心発問
  ねらいとする価値に迫るための児童生徒の反応（予想）
- ねらいとする価値に迫る発問